

FD 関連研修会 参加報告書

主 催	東北大学高等教育開発推進センター
企画名称・テーマ	「東北大学における初修外国語教育」
開催日<会場>	2011年10月13日(木) <東北大学川内キャンパス>
参加者所属	文学部 中国学科

参加報告

1. 研修会の趣旨

国際化が進む中で、中国語、フランス語、ドイツ語、朝鮮・韓国語、ロシア語、スペイン語など、いわゆる「大学での初修外国語」の目標・内容・方法が大きな課題となっている。研修会に先立つ2010年12月6日から17日にかけて、東北大学高等教育開発推進センターでは、861人の学生を対象にし、アンケート調査を行った。本研修会では、その調査結果を踏まえながら、大学における初修外国語の現状と今後の在り方について議論した。

2. 研修会の概要

シンポジウムでは、まず「初修外国語調査の目的と結果の概要」の紹介がなされた。その上で、ドイツ語、フランス語、スペイン語、中国語など四つの外国語を担当している教員4名による報告がなされた。最後に、質疑応答を含めたパネルディスカッションが行われた。東北大学高等教育開発推進センターが行った「東北大学の初修外国語学習に関する基礎調査」アンケート調査の内容は主に「いま学んでいる外国語とその選択理由」、「語学力と目標」、「授業外学習」、「授業への希望」、「今後の履修希望」、「調査対象の属性情報」など六つの項目から構成されている。これらの調査項目に基づく調査結果は、主に以下の5点にまとめることができる。

① 「いま学んでいる外国語とその選択理由」について。

東北大学で開講している六つの外国語のうち、中国語を選択した学生の数は一番多い。その選択理由としては、「その言語を使っている国の文化・歴史などに興味があるから」と「働く上で役に立つ言語だと思うから」、という2つの理由が多く挙げられている。

② 「語学力と目標」について。

「読む」、「書く」、「話す」、「聞く」の4技能に共通して、日常生活レベルが目標となっている。

③ 「授業外学習」について。

3時間以下が9割以上を占めており、単位制度が想定する学習時間を下回っている。また授業外学習は主に「授業の予習・復習」だけを行い、それ以外の活動はほとんど

実施していない。

④「授業への希望」について。

授業で 4 技能の解説・練習を希望する割合が高い。また半分以上の学生は「その言語を使っている国・地域の文化・歴史」を学びたいと希望している。

⑤「今後の履修希望」について（一年生のみを対象に調査）。

2 年次以降の受講をまったく希望していない学生は 15.4%に止まり、43.7%の学生は学生の継続を希望している。

3. 本学の FD 活動における検討課題

以上の東北大学での調査結果は、本学における初修外国語教育と多くの共通点がある。特に本学の FD 活動における検討課題として、以下の 2 点を指摘することができる。

①与えられた時間内で、さらに「読む」、「書く」、「話す」、「聞く」と 4 技能の解説・練習を強化しなければならない。

②「その言語を使っている国・地域の文化・歴史」を授業内に取り入れるべきである。

東北大学の学生へのアンケート調査結果により、学生たちは「その言語を使っている国・地域の文化・歴史」に高い興味をもつことが判明した。これは学生の授業に対する要望を明らかにすると同時に、担当教員にとって、いかに学生の学習意欲を維持させるかという面においても、重要なヒントになる。また、この点の強化によっても授業外学習時間の低下を改善することが期待できるように思われる。

本研修会に参加したことにより、私は自分が携わっている本学の今後の中国語教育について、教員側からの具体的な対応として次の 3 点が有効ではないかと考えている。①現代中国の社会情勢に関する知識を授業内に取り入れるべきである。②難関とされる発音学習を丁寧に指導すべきである。③時間効率化を高めるように、授業展開を練らなければならない。

以上